

資料6 ごみ焼却に伴う環境負荷(温室効果ガス排出量)の推計(計画期間全体)

項目	年度	基準年度実績*				*		
		令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
焼却量(t)		22,484	20,228	19,724	18,320	18,321	18,232	18,189
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)		8,274	7,444	7,258	6,741	6,742	6,709	6,693

項目	年度		*				*
		令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)	令和16年度 (2034年度)	令和17年度 (2035年度)
焼却量(t)		10,293	10,294	10,241	10,214	10,189	10,190
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)		3,788	3,788	3,769	3,759	3,749	3,750

※基準年度の焼却量実績は表2-25と異なり直接搬入量を含む実際の焼却量を用いた算出、他の年度の推計は表2-25で推計した焼却量に基づく算出です。

【令和17年度(2035年度)温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算)】

$$3,750\text{t-CO}_2 \doteq \textcircled{1}10,190\text{t}(\textcircled{*}1) \times (1 - \textcircled{2}0.5255(\textcircled{*}2)) \times \textcircled{3}0.251(\textcircled{*}3) \times 2.76 \\ + \textcircled{1}10,190\text{t}(\textcircled{*}1) \times 0.017 \times 2.31$$

※1 令和17年度(2035年度)焼却推計量

※2 令和5年度(2023年度)名越クリーンセンターごみ質調査(4回平均)水分率

※3 令和5年度(2023年度)名越クリーンセンターごみ質調査(4回平均)合成樹脂類比率

推計の計算式：

第2次一般廃棄物処理基本計画においては、資源化处理や市外における処理に伴う排出量も算出していましたが、作業量が多く、指標として年次把握することが困難であるため、第3次計画からは環境省が策定したマニュアルに準じて簡易的に算出しています。

また、ごみ質調査値については、令和7年度(2025年度)からは逗子市の焼却施設を中心に焼却処理を行っており、減量・資源化策の実施によっても組成が変わる見込みですが、本計画策定時点ではごみ質が不明であり、推計にあたっては名越クリーンセンターにおけるごみ質調査結果を用いて算出しています。

$$\text{CO}_2\text{排出量(t-CO}_2) = \textcircled{1}\text{焼却処理量(t)} \times (1 - \textcircled{2}\text{水分率}) \times \textcircled{3}\text{プラスチック類比率} \times 2.76 \\ (\text{廃プラスチックの焼却に伴う排出}) \\ + \textcircled{1}\text{焼却処理量(t)} \times \text{全国平均合成繊維比率}(0.017) \times 2.31 \\ (\text{合成繊維の焼却に伴う排出})$$

*計算式:温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver6.0)(令和7年(2025年)3月 環境省)